



南知多町立内海中学校だより 号外

(発行12月21日)

あけゆく空 2015

やさしさいつも (手話教室)

～ あいさつと歌声と笑顔が輝く学校 ～

生徒にとって、楽しい冬休みが目前となりました。「平和」をかみしめつつ、温かい家庭の灯りの下で、一年を振り返り、また新年への目標をもつ期間にさせていただきたいと思えます。先日、1月の予定を載せた「1月号」を発行しましたが、近況をお伝えしたく、号外を発行いたします。

「校歌に想う」

校長 内田幹男 (46 年度卒)

教員として勤めた学校で校歌を覚えても、悲しいかなすぐに忘れてしまう現実があります。13年も勤めた学校もありますが、今ではメロディーを思い出すのにも苦労します。歌詞を見て、メロディーが流れれば歌えると思えますが。一方、**母校の校歌**はというと、いまでも小学校と中学校はメロディーも歌詞も浮かんできます。口ずさめると言うことです。若い頃に覚えたことは、いつまでも残ると改めて実感します。

また、自分の人生を振り返ると、内海中校歌による影響は少なからずあったなあと思えてなりません。とりわけ4番の歌詞、「この国の行く末は、我らの双肩に」「世界の海に漕ぎ出でん」の部分には、何か使命感をもって社会で活躍したい。小さく固まらず、自分なりに羽ばたいてみたいと心をくすぐられ続けてきました。みなさんにとって、校歌とはどういう存在でしょうか。

さて、母校に赴任し約40年ぶりに内海中校歌と再会しましたが、3番を歌わなくなっていたことにさみしさを感じました。当時も2番は歌っていませんでした。それは当地に移転して、歌詞が合わなくなったからだ聞いていました。しかし、3番については、中野先生(51年度卒)は歌っていて永井先生(54年度卒)は歌っていなかったということまで分かりましたが、今となっては歌わなくなった理由は分からなくなっています。この3番の歌詞もとてもすばらしく、心に染み発揚されるものがあります。校門北の築山には、昭和47年度卒業生寄贈の**校歌碑**があり、この3番が選択されています。当時の生徒の心に一番染みたものと思われる。

歌詞から与えられる影響の意味でも、またとても歌うことを愛してくれている今の内中生には、校歌と深くかかわってもらいたいと強く思います。そこで、今年から3番も歌っていくことにしました。卒業式には、皆様に披露できると思います。

内海中学校校歌	作詞 寿山 三郎	作曲 須川政太郎
一 あけゆく空にほのぼのと 朝日のかげに輝きて 緑の松にはゆる時 けがれを知らぬ砂白く 磯の香高き城山を のぞみてたてる我が母校	二 窓には近く伊勢の海 平和の波をたたえつつ 我等の幸をうたうなり きらめく光身にあびて 学びの海の幾千尋 つとめはげみてわけ入らん	
三 のぞめば広き大空に 真理の月のかげさえて 我等の行く手照らすなり 尊き教え仰ぎつつ 友がきここにつどいより やがてたどらん人の道	四 ああこの国の行く末は 若き我等の双肩に 重き使命をになうなり たがいに力あわせつつ 文化の潮に棹さして 世界の海に 漕ぎ出でん	



正門横の校歌碑

実は、もう一つ変わっていることがありました。1番の歌詞の最後の部分で、当時は「のぞみてたてる我が**母校**」で、今は前述のようです。このことについては、またの機会にします。